

## 誰もが輝ける舞台を次世代へ

今年で17回目を迎える「池袋モンパルナス回遊美術館」。池袋モンパルナスの精神を次世代に引き継ぐため「まちのどこも美術館」をコンセプトに、地域ぐるみで開催しています。今回はその魅力にせまるとともに、区内で活躍するアーティストを紹介します。



### 池袋モンパルナスとは？

昭和初期から戦後にかけて、要町、長崎、千早周辺にたくさんのアトリエ付き貸家が建ち並んでいました。そこに画家・彫刻家・詩人など幅広い分野の芸術家たちが全国各地から集まり、創作活動に没頭する生活を送りました。その情熱あふれるエネルギーを詩人・小熊秀雄がフランスの芸術の中心地であったパリ・モンパルナスの名になぞらえて「池袋モンパルナス」と呼んだのです。



小熊秀雄 『小熊秀雄と画家たちの青春』(2004年練馬区立美術館(ほか)図録より転載)



小熊秀雄《夕陽の立教大学》豊島区蔵



アトリエ村写真 樽松正利氏提供

### ／豊島区ゆかりの若手アーティストにインタビュー！／



### 松井 えり菜 さん

**profile** 画家、現代美術家。個性的な自画像や、ウーパールーパーをモチーフとした作品を多く制作。西池袋にアトリエを構え、3歳の息子さんを育てながら精力的に活動中。

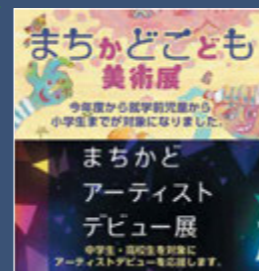
### ▶母として、芸術家として豊島区で暮らす

作家活動を続けるため、子育てしやすいイメージから豊島区に引っ越してきました。以前谷端川周辺で活動していた時、近所の日本画家の方が地域の方々に私を紹介してくださり温かく受け入れてもらいました。外から来た人にやさしいまち、そうした雰囲気は池袋モンパルナスの時代も現在も共通しているのかもしれませんが。最近は池袋アートギャザリング(\*)の審査員や熊谷守一美術館での展示など、地域で活動する機会も増えました。地元の画材メーカーさんのご協力で行った時には沢山の方が興味をもってくださり、この地域の芸術への関心の高さを感じました。子育てをしながらの作家活動は大変なこともありますが、これからも一日一日を大切に制作し、その姿を息子に見せられたらと思います。

※池袋アートギャザリング…アーティストの活動支援を目的に現役美術作家を審査員とした国籍・年齢・ジャンル不問の公募展



8月に熊谷守一美術館で「家族、団欒」をテーマにした個展を開催



「池袋モンパルナス回遊美術館」秋期メイン企画  
「まちかどこども美術館」「まちかどアーティストデビュー展」  
11月8日(火)～13日(日) 午前11時～午後6時30分(最終日は午後5時まで)  
東京芸術劇場地下1階アトリエイースト

「まちかどこども美術館」は区内在住の就学前児童～小学生を対象、「まちかどアーティストデビュー展」は中学生・高校生を対象に、自由な発想で制作された未来のアーティストの作品(絵画・立体など)を一挙ご紹介。  
担当実行委員会事務局 ☎4363-1580(平日午前9時～午後6時)



池袋モンパルナス  
回遊美術館  
ホームページ

### 金丸 悠児 さん

**profile** 画家。神奈川県出身。東京藝術大学デザイン科卒業。アーティスト集団「C-DEPOT」設立、代表。池袋アートギャザリング審査員を初回から務める。

### ▶池袋アートギャザリング公募展を自ら企画

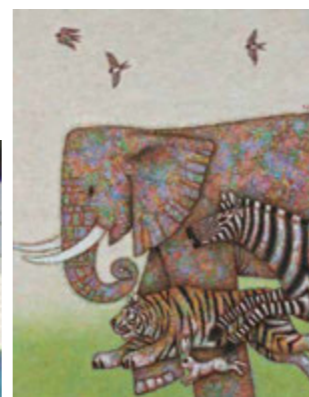
日本中のアーティストと切磋琢磨したいという思いがあります。ジャンルも年齢も異なるアーティストが集まると、共振し得られるものが多いです。つながりが生まれると仲間の活躍が心からうれしく、自分にも還ってくる気持ちになります。今後もこの公募展が多くのアーティストの発表の場となり、その先の活動へつながりを作れたらうれしいですね。

### ▶豊島区は色々なことにチャレンジできる場所

私自身も池袋モンパルナス回遊美術館でさまざまな試みをしています。C-DEPOTの活動としてアート鑑賞×探索イベントを行った時は、謎解きファンの方にも興味を持っていただくことができました。このまちには人間味があり、いい意味で雑多。アートに関わる人にとって、挑戦しやすい環境だと思います。



「空の旅人」



「行進」



### ／お話を伺いました／



### 池袋モンパルナス回遊美術館 実行委員会委員長 小林俊史さん

池袋のまちの原点ともいえる池袋モンパルナスの精神は、創造に励み友情を育むコミュニティの輝きそのものです。「池袋モンパルナス回遊美術館」はその精神を継承するよう、大学や百貨店、商店街、ギャラリーなど、“まちのどこも美術館”になるような地域ぐるみのアートイベントを開催しています。かつてアトリエ村と呼ばれた時代のお話を伺うと、活気ある情熱的な人であふれていたことに驚きます。100歳を超えてなお現役画家の野見山暁治さんは若き日にここを「歯ぎしりのユートピア」と呼びました。それは芸術家同士が切磋琢磨しながら自由な気持ちでいられる夢のような場所だったからです。私はこれからも豊島区が自由な発想や想いを表現できる活気あるまちであってほしいと思っています。今後は「アツマル・ツナガル・ヒロガル」をコンセプトにした公募展「池袋アートギャザリング」を全国的に展開し、若きアーティストの活躍のチャンスをさらに広げていく予定です。



今年5月のアートギャザリング展示の様子